**『啐啄』　　　　　　１号**

**～　3学期52日間がスタート。**

**締めくくりと次の船出の序章です。～**

**瀬田中学校　校長　今井　弘樹**

☆彡　早いもので3学期52日間がスタートして2週間が経ちました。生徒それぞれが、目標や目標達成への決意をもって新しい年のスタートを切ってほしいと始業式で話をしました。

北海道大学の前身、札幌農学校のクラーク博士が語った「ボーイズ・ビー・アンビシャス」＝「少年よ、大志を抱け」という名言を取り上げた新聞を引用し、「大志」は高尚で縁遠い感じだが、「夢」や小さくても自分の**「思い」**と考えたなら、**「今のままじゃだめだ。もっと・・・・したい。もっと・・・・しよう。」という思い**は「車の前輪」、**努力**することは「後輪」、車を動かすエンジンは「面白い」「大好き」「人や社会とつながりたい」という**感情や情熱**。それぞれが**「思い」が実現するように**しっかりと前輪と後輪を動かしてほしいと私の願いを伝えました。

☆彡　　3年生は進路決定の山場。**今ここ**での踏ん張りが大切です。2年生は3年生の背中をしっかり見て最高学年となる自覚を高めることが大切です。1年生は新入生にこの1年間で逞しく成長の跡を自分で確認して、飛躍の2年生の準備をしてください。

今年のNHK大河ドラマ 『西郷(せご)どん』 と同じく幕末を駆け抜けた坂本龍馬を描いた司馬遼太郎の小説 『竜馬がゆく』 のを最後の一文は、「若者はその歴史の扉をその手で押し、そして、未来へ押しあげた。」　とあります。竜馬の最期は人生の終わりではなく、歴史の始まりであると結ばれています。一年の締めくくりである三学期は、船出となる次の一年への序章です。一人ひとりが自分を見つめて充実した日々を送れているか、機会あるごとに自分を振り返ることを大切にしてほしいと思っています。

☆彡　次に学校や教員側の視点からの課題をお話したいと思います。ご存知の方もおられると思いますが、数年前に 「99年後に誕生する予定のネコ型ロボット ドラえもん がすぐれた技術で作られていても、生物として認められることはありません。それはなぜですか？」という問題がある私立中学校の入試問題が話題になったと、今年の新聞に取り上げられていました。さて、正解はどのような内容だとお考えですか。正解が複数考えられ、必ずしも確定されないオープン・エンドな問題です。

☆彡　中学校では平成30年度からは道徳が教科となり、新学習指導要領が平成33年度から完全実施されます。子供たちは、グローバル化、少子高齢化、人工頭脳AIの普及 やICTの革新による職業構造の変化が激しく、答えが一つでない時代を生きるために必要な資質や能力を身につける必要があります。そのためには、日頃の学習においては暗記一辺倒から脱出し、生徒同士の対話や意見交流、教職員や地域の人との対話などを通して自分の考えを広げたり深めたりして自分で考えることがより重要になります。前述の「ネコ型ロボット ドラえもん」の問題は、そのような先の時代に必要な力を見据えて作成された問題だと言えます。

私たち教員は、生徒たちに未来を生きる力を身につけさせるため、「主体的・対話的で深い学び」の視点を大切にした不断の授業改善を進めなければならないという大きな課題に日々取組んでいきたいと考えています。

☆彡　　最後に、3学期も、瀬田中学校の歴史ある”３Ｓ運動”という”未来の瀬田中に引継ぎ、繋いでいく活動” に引き続き、大切に取り組んでほしいと思っています。

瀬田中学校の大切にしたい３Ｓ運動

「スッキリ環境、授業もイキイキ～スッキリ学習環境を整え、スタートよく授業に臨む～」

「爽やかあいさつ。いつもニコニコ 爽やかな心のこもった挨拶 ＋ ワンを心掛ける」

「すすんで活動、みんなキラキラ　すすんで活動の場を求め、自分のよさを発揮し、高める」